

三鷹市高齢者センターけやき苑 認知症対応型通所介護  
令和元年度 上半期 運営推進会議

1. 日 時 令和元年9月3日(火) 13:30~15:00

2. 場 所 けやき苑

3. 出席者 8名

- ・利用者ご家族1名
- ・地域住民代表(民生委員)
- ・知見を有する者(小規模多機能型居宅介護 管理者)
- ・地域包括支援センター(大沢地域包括支援センター)
- ・けやき苑職員4名(管理者、生活相談員2名、ソーシャルワーカー)

4. 内 容

1) 主催者挨拶(本会議の設置目的・趣旨説明)

2) 参加者自己紹介

3) 令和元年度 けやきの会 事業実績報告

別紙①参照

4) ヒヤリハット・事故報告

別紙②参照

(委員) ヒヤリハット報告について、これだけ細かな報告が上がっているということは、何か共有するツールのようなものがあるのか?

(職員) 認知症グループ内での情報共有、夕方のミーティング等で、対応方法等共有している。利用者数、職員数も多い施設のため、細かな情報共有が大事だと感じている。

(委員) 利用率について、横ばいの状況が続いているが、何か対策を考えているのか。

(職員) 週6回通所の方が終了となり、新規利用者を週1回から開始しているため、すぐに回復できない状況が続いている。新規利用者確保に向けて、けやきの会をPRすべく、計画中である。

(委員) 現状、少ない利用者さんの対応を密にされている様子だが、増えた時に職員配置には支障がないのか。

(職員) 介護保険上の職員数は満たしており、増えても支障なく運営できる体制となっている。

(委員) 活動内容が多種多様で、考える職員も苦勞されているのではないか。他事業所等にも聞いてもらえれば、お互いにいい気づきがあるのではないか。

(職員) ありがたい提案だと思う。こちらからもお願いしたい。

#### 5) 令和元年度 けやきの会 支援内容について (事例紹介)

けやき苑 (けやきの会) 通所に至るまでの経過報告。

(家族) 認知面の低下が大きく、行動面では問題ない。ただ、食事を作ること、衣類を着替えることは難しくなってきた。手伝っている。けやき苑が始まってからは、精神的に安定してきたように感じている。私自身も穏やかになったように思う。以前は、興奮状態が続き、お互い言い争いになっていた。急に家を出ていったと思ったら、交番に駆け込んで、警察官が来たり、その都度大変な状況だった。今はけやき苑に向かって出かけているので、その部分では安心している。

(委員) 今後の行動に向けて、GPS の導入などは検討されているのか？

(家族) まだ考えていない。

(職員) 検討はまだですが、ケアマネ、ご家族とも相談しながら、今後の変化に気を付け、導入する可能性も含め、検討したい。

#### 6) けやきの会 活動見学

けやきの部屋にて、ご利用者と懇談。ご利用者が淹れたお茶を飲みながら談笑されている。終盤は全員で「ふるさと」を歌っている。

#### 7) 質疑応答・意見交換等

(委員) 事例紹介の方がお若い方で、体がしっかり動いていることに驚いた。今日は皆さんにお茶を淹れてくれている場面を見ると、その方その方への役割を大切にケアされていることが分かった。環境の調整が大事なんだと思った。

(委員) 利用者さんそれぞれが、自分の役割を持って、けやき苑に来ることで元気なんだと感じた。スタッフの皆さんが盛り上げてくれる環境があった。これからも、できることを続けてほしいと思う。

(家族) 自宅でも「何かしたい」とは言うが、以前からの趣味(絵画、油絵等)には全く興味がなくなった様子で、やろうとしない。

(職員) 活動の中で、その方が得意とすることを担っていただくことで、その時間に集中しつつ、みんなの役に立っているという充実間を感じてもらいたいと思う。

(家族) 通所することで、安定したと思う。以前はどこにいったか気が気でなかった。今は、けやき苑に向かうことが多いので、その点でも安心している。

(委員) 同じ介護度の方でも、差があることに気づいた。身体面だけでなく、精神面の差でも、介護度の違いになることが分かった。

(職員) 認知症の方を介護することは、難しいことだと思う。我々専門職は、専門的に評価を行い、できないことに注目せず、活動の中でも、誰かが手伝うことで、できることを見つけることが重要だと思う。

(職員) 次回、来年2月下旬に開催予定。今回は、認知個別機能訓練のけやきの会での定義や、日々の支援にどう生かしていくか発表できるよう準備する。

令和元年度 上半期 三鷹市高齢者センターけやき苑 認知症対応型通所介護事業実績等

【利用者状況】 (令和元年 4月～8月)

(新規受け入れ)

新規利用	2
登録変更	1
合計	3

(利用者年齢)

65～69歳	0
70～74歳	0
75～79歳	4
80～84歳	3
85～89歳	9
90～94歳	6
95～99歳	3
100歳～	0
平均86.7歳	

(通所回数)

1回	10
2回	7
3回	4
4回	2
5回	2
6回	0
一人当たり 2.1回	

(曜日別登録数 令和元年9月2日現在)

	月	火	水	木	金	土
	8	11	9	12	7	7
要介護1	1	2	0	2	0	1
要介護2	1	3	1	4	1	3
要介護3	4	3	3	3	3	1
要介護4	0	0	2	1	0	0
要介護5	2	3	3	2	3	2

※登録は25名(男性6名、女性19名、うち入浴利用者10名)  
 ※定期的にショートステイを利用する人は11名。

(利用終了)

逝去	0
入院・入所	2
その他	1
合計	3

(介護度別)

	利用実人数					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
要介護1	3	3	3	3	2	
要介護2	4	4	5	5	6	
要介護3	6	6	6	7	7	
要介護4	3	4	4	3	1	
要介護5	8	7	7	7	9	
合計	24	24	25	25	25	

(一日の平均利用人数 及び 稼働率) 定員12名

	延人数					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
要介護1	24	20	24	20	16	
要介護2	42	34	47	49	62	
要介護3	50	53	55	58	62	
要介護4	11	15	16	10	3	
要介護5	48	43	41	38	41	
一日平均人数	7	6.9	7.3	6.7	7.1	
稼働率 (定員12名)	58.3%	57.3%	61.0%	56.1%	59.0%	

令和元年度 上半期(令和元年4月～8月)  
認知症対応型通所介護 事故・ヒヤリハット報告

◆事故・ヒヤリハット

発生日時	性別、介護度	発生状況	原因分析	再発防止策
4/11 11:00	男性 要介護5	【口腔セットの返し忘れ】 前日持参された歯ブラシとコップが、食堂の洗面所に置いてままだった。	新年度で職員体制も新たになり、各利用者の対応内容の情報不足、伝達不足、帰る時の荷物チェックができていなかった。	洗面台使用後の確認、帰る時には利用者ごとの荷物を確認する。
4/24 10:00	女性 要介護3	【薬の重複対応】 1日2回(10時、15時)の服薬、アラーム設定で対応。10時の分の抑肝散に続けて、15時の分の抑肝散を飲ませてしまった。	看護師同士の連絡不足が原因。もう一人の看護師がすでに服薬対応していたが、両者の間で確認しないままだった。	薬の保管袋を二つ用意し、10時の分・15時の分それぞれに1包ずつ入れて保管する。15時の分は冷蔵庫に入れておくようにする。服薬介助時は看護師同士で確認していく。
5/8 15:00	男性 要介護5	【利用者だけのエレベーター使用】 1階ロビーで帰りのバス乗車を待っていた状況。一人で2階に上がってきて誰かを探していた本人を発見した。職員の付添いはなかった。	帰りのバス添乗職員だけでなく、受付係の職員も皆が移動介助をしていたことで、本人が一人でエレベーターに乗ったことに気づけなかった。	玄関ホール全体を見守る職員もいた方が良い。
5/8 16:40	女性 要介護4	【入れ歯の返し忘れ】 自宅にお送りした際に、義歯を装着していないことをご家族より指摘され、義歯を返し忘れたことに気づいた。	午後の活動途中で、ご本人が机の上に義歯を外したため、洗浄し、紙コップに入れて活動室の洗面台に置いたままだった。	義歯、眼鏡をご自分で外すことがあるので、随時ケースにしまうようにする。
7/9 14:50	男性 要介護5	【利用者だけのエレベーター使用】 1階ロビーで帰りのバス乗車を待っていた状況。杖使用のご本人が一人でエレベーター前まで行き、ボタンを押して乗ろうとしているところを発見した。	職員はバス誘導の対応をしており、見守りがなかった。	バスへの誘導は添乗職員が対応する。受付係は全体を見守りながら、呼び出し対応をする。

◆苦情  
なし